

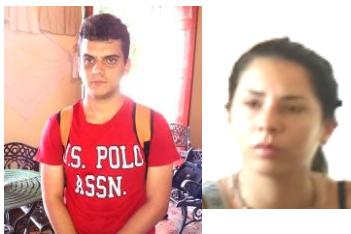
松尾光のキューバ右往左往 ②

9月、日本語講座開設

アカデミックビザを取得して日本語講座を開設した。9月6日の予定が9月12日に延びる。そのほかの活動も主催者のサンクティ・スピリトゥス大学、「グアイアベラの家」の都合で微修正を強いられるが無事にスタート。在キューバ日本大使館伊藤書記官が講座開設のニュースレターを書いていただきマスコミ向けに公表した。深謝。

前回も書いたが「成績優秀者訪日研修」派遣を2、3年後にサンクティ・スピリトゥスから送り出すのが夢だ。

日本語講座の学習者たち



アレキス君 ロサナさん



レニエルビス君 アリアナさん



ヤリエリ君 ダニエルさん



ルイスさん ラマンさん



タニアさん キンホさん

環境が激変し、多くのキューバ人やキューバ在住の日本人と接するようになった。日曜日だけが休みで、あとの日はすべて教える多忙な日々だ。

クラスの他に音楽指導も（個人レッスンも含む）、学習者たちの希望で行う。彼らを紹介したい。

日本語でお金を稼ぐことが目的の人はいない。田舎ではお金をたくさん稼ぐ手段は無く、貧しい生活を受け入れざるを得ないようだ。

知的興味で日本語を3年間勉強しようとするキューバの人たちが本当にいるのかという危惧は、あまり真面目に考えないようにした。皆おおらかに気軽に考えている。



サンクティスピリトゥスにおける
新規日本語講座の開設

平成28年8月31日

9月6日、国際交流基金、サンクティスピリトゥス大学、博物館グアジャベラの家、及び在キューバ日本国大使館（当館）の共同プロジェクトとして、サンクティスピリトゥス大学にて、日本人の松尾光先生を迎え、日本語講座を開設します。同講座は、同大学の学生を対象とし、当面は約20名の生徒に対して週3回の授業が予定されています。

また、9月6日から、博物館グアジャベラの家において、一般市民20名を対象とした松尾先生の日本語教室を週3回行います。

現在、キューバ国内には、ハバナ大学等を中心に日本語講座が開講されていますが、今回の新たな講座開設により、地方都市であるサンクティスピリトゥス市においても、日本語教育・学習がさらに普及することが期待されます。

当館では、日本語教育・学習環境の改善に努めており、例年、「成績優秀者訪日研修」を通じた日本語学習者の日本への派遣や、「日本語弁論大会」の実施、文部科学省の国費留学制度を通じたキューバ人学生の日本留学の実施等を行っています。

なお、各講座の詳細については、サンクティスピリトゥス大学及び博物館グアジャベラの家それぞれお問い合わせ下さい。

在キューバ日本国大使館
広報文化班
Tel: (+53) 7204-3355, 7204-8904
E-mail: cultura@hv.mofa.go.jp
www.cu.emb-japan.go.jp

出入りが激しく、今は25名。来てすぐやめた人たちは5、6人いる。これからみんな続けてくれるのか気がかりだがなるようになれと考えるしかない。真面目な人、優秀な人さまざまだが、みな魅力的な人ばかりだ。写真を交え紹介する。



トニー君 アルベルト君

医学部の学生でアレキス君、19歳。熱心で物分かりがよいが、学業が忙しいらしく欠席しがちだが当てるといつも正しく答える。日本のアニメ『NARUTO -ナルト-』が好きなアニメおたく。将来は医者なので、日本語は教養のひとつだろう。

建築家のロサナさん。大学を出たばかりと思う。建設関係の会社勤務、日本語を学ぶのが楽しそうで、ほぼ出席。日本語教師の希望がある。若くて明るく美人。建築家のボーフレンドがいる。

大学で歴史学講師のダニエル（女性）さん。30歳代で小さなお子さんがおられる。楽しそうに講座をうけて全出席。おとなしいが理解が早い。

アレキス君の友人の医学生で、同様にアニメおたくのレニエルビス君。アニメを描くのがプロ級の研究者ヤリエ

り君。2人にはピアノも教えている。豪雨で欠席以外は全出席の優秀な医学生のアリアナさん。日本の歌が好きで、コスプレファンの大学生タニアさん。2人ともとてもまじめな女学生だ。2人には、個人レッスンとして歌を教えている。

60歳のスペイン文学の文学部教授のラマンさん。じつは年が近く一番親しみをもっている。ちょっと耳が遠いためか、なかなか単語が覚えられない。三島由紀夫、大江健三郎など日本作家の小説をスペイン語訳で読んで、文学の本も出版しておられる。俳句や日本現代詩にも造詣が深い。

13歳の中学生トニー君と14歳のアルベルト君。アルベルト君は、お父様が大学の先生で、ぱったりお父様にお会いした。日本にはまっているようだ。忘れてならないのがルイスさん。日本オタクでプロジェクトの世話人だ。

学習者に助っ人が現れた。2年間、日本で働いた経験があるポリビア人で、キューバで教育学の博士号をとるため留学中のキンホさん。彼もアニメおたく。日本語を体系だって学び直したいとのことで講座に来ている。講座は必ず出席し、私を助けて他の学習者にスペイン語で説明してくれている。

大学生が多く10人近く。うち4人は医学生。中高校生も3人。大学講師、教授が5人。あとは働く人たち。男性18人、女性7人だ。アニメおたく、コスプレファン、武道修行者、折り紙愛好家、日本文化研究者など。35回講座を行った。

音楽でリラックス

キューバの人が興味を抱く「和」の文化は教えられないが、趣味の音楽を教え、リラックスを図っている。うまくいっているのではないかと思う。

11月のピックアップ☆日本語講座の見学会

11月23、24日に私の講座の見学会が行われた。見学者は国際交流基金の中南米担当の駐在員蟻末氏、もう一人は日本大使館書記官の伊藤氏、メキシコから、ハバナから、わざわざこられた。

これに対し日本語講座の主催者であるサンクティ・スピリトゥス大学、グアイアベラの家が最大限のもてなしを計画した。蟻末氏は、学習者たちが楽しそうに勉強している姿が印象的とおっしゃっていた。

見学会の他に日本語や日本文化を研究する講座の枠組み(カテドラ)がサンクティ・スピリトゥス大学教授会で採用されたことを公表する行事があった。

講座の名は私の父の名“松尾威哉(たけや)”と命名。経緯は以下の通りだ。



グアイアベラの家講座風景



サンクティ・スピリトゥス大学講座風景

日本語講座のプロジェクトの責任者であられるマリアエレナ教授は、父がハバナ大学で実践した26年前の活動に強い印象をもち、私が7月に帰国の際、父の生涯の簡単なレポートを欲しいと希望された。

88歳の父は希望を聞き、激動の昭和、平成における日本の時代背景をベースに自らの人生について2800字の文章を3日で書きあげる。

それを教え子のキューバ人、ピータ・イビス氏がスペイン語に翻訳し、9月、マリアエレナ教授に提出した。

マリアエレナ教授はこれを熟読、講座の名称を、父の名にすることを決めた。父は、これを聞きありがたいと感激、感謝した。

フィデルカストロの死

セミナー参加のためハバナへ11月25、26日、27日3日間滞在する。16時にハバナに着いた25日金曜日の晩22時過ぎにフィデルカストロが亡くなった。90歳。

公の行事は、すべてほぼ中止、国は9日間の喪に服す。テレビは追悼番組だけ。街も国旗は半旗で、陽気な音楽もなく静かだが、想定された混乱はなかった。

街にあふれる観光客は、変わらず楽しく闊歩している。サンクティ・スピリトゥスでは見なかった若い日本人女性の観光グループをいくつも見かける。フィデルカストロは引退しているので、実務にはほとんど影響ないだろうと伊藤書記官はいていた。



12月3日 フィデルカストロの遺灰サンクティ・スピリトゥスへ



弁論大会受賞者（中央がサンクティスピリトゥスの学習者）あとはハバナ大学生



共産党の新聞『グランマ』。フィデル・カストロが亡くなった翌日朝刊。すべて追悼記事。

日曜日までハバナにいる。追悼の集会かもしれない大きな集団の声が街に響く。歴史的瞬間に立ち会った。

12月3日、遺灰がサンクティ・スピリトゥスを通る。一般市民の“ジョー ソイ フィデル（わたしはフィデル）”の声のなか見送った。

12月6日 天皇誕生日を祝う集い

ニュースレターを書かれた伊藤書記官の配慮で日本大使公邸の行事に招待を受ける。

三井物産の方と話す。先月事務所を開設したばかりだそう。トランプ発言は実害はないと言っていたが、進出を後らそうとする企業はあるかと言っていた。

豊田通商は、まだ事務所を開設していない。新車のレクサスを展示していたが、いつ街を走るのだろう。

そこで父の教え子で、行き違いのため10年来会えなかったオリガさんに会う。日系人社会がある青年の島の方とも再開。日系人の会の会長であられ商社双日に勤めておられるミヤサカ氏と知り合う。

12月17日 日本語弁論大会

国際交流基金が支援しハバナ大学と日本大使館が行う日本語弁論大会にサンクティ・スピリトゥスの学習者たち

が参加。

私は一時帰国中で参加できなかったが、様子を聞く。自己紹介だけのスピーチだったようだが、いい経験になり、来年参加する意欲がわけばと思う。主催者の配慮で特別賞をいただいた。

1月17日 ミヤサカ氏を訪問

日系人の会の会長、ミヤサカ氏の事務所を訪問した。貴重なお話しを伺った。

1. キューバでは1100人の日系人がおり、日本語を習いたい需要がある。サンクティ・スピリトゥスには日系人が35名いる。日系人の方も受講できたらと願う。住所をいただき調べたら高齢の方、街から遠いところに住んでおられる方が多く、候補は数人のようだ。
2. 日本企業はまだ医療関係しか進出しておらず、今年でなく来年ぐらいには動きがあるかもしれないとのこと。経済封鎖もとけず、キューバ人を雇うには制度上の障害もある。

まつお あきら

日本経済新聞社でIT技術者として30年近く勤務。2016年3月に退社後、仕事とは無縁なキューバ行きを決めた。その経緯は、今から25年前に父親の松尾威哉さんがハバナ大学に日本語講座を開講したことにさかのぼる。

詳細は本紙21号（2016・4・4発行）11ページのBOOK『キューバの光と影 — ボランティア日本語教師三年の記録』参照。



キューバ友好円卓会議への入会・カンパ随時受付中♪

キューバ友好円卓会議は、「キューバとの友好推進」、「キューバに関する情報交換と情報発信」を目的に2003年に設立され、年1〜2回、フォーラム、シンポジウム、講演会などを開催。そのほかハリケーン災害の支援活動、キューバツアーなども行っています。事務局スタッフは全員ボランティアです。

会報『サルー!』の読者約600名 ■年会費：3000円

どなたでも入会できます

お問い合わせはFAXかe-mailで下記へ

キューバ友好円卓会議 FAX 03-3415-9292

e-mail cuba.entaku.0803@gmail.com

郵便振替 00100-9-499950 キューバ友好円卓会議